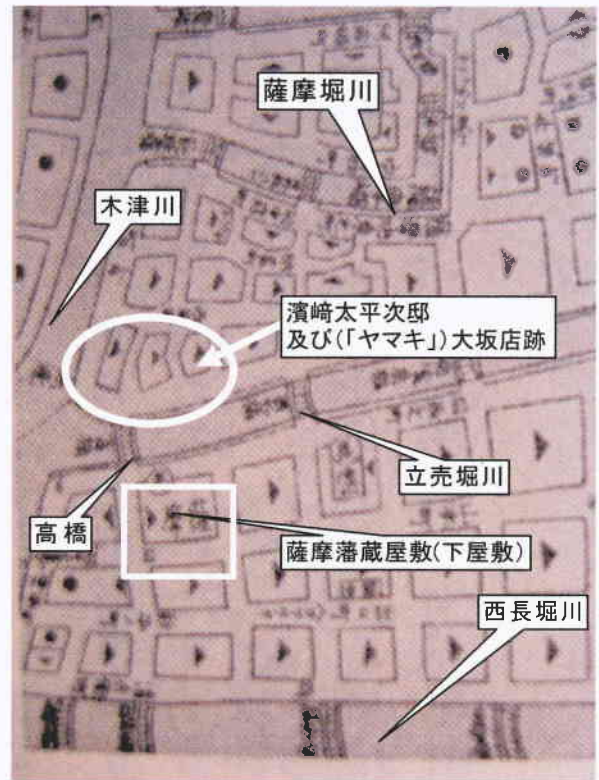


9

薩摩御用商人
濱崎太平次郎及び(「ヤマキ」)大坂店跡

西区立売堀6-5-6、
立売堀6-6-15~17、
立売堀5-8-25・27周辺

▶ 薩摩の豪商 濱崎太平次(8代目)は薩摩藩の財政難を立て直すため、家老 調所広郷より鹿児島島の藩庁に呼び出され、薩摩藩の御用商人に任命されました。唐物を密輸入し、琉球や奄美の砂糖を大坂方面で売りさばき、膨大な利益を上げました。濱崎太平次の店「ヤマキ」は、藩の財政建て直しに貢献しながら、店の事業拡大を図り、持ち船が34隻以上となり、函館、琉球、長崎、大坂、薩摩の甑島、鹿児島、指宿港に支店を構えました。「海上王 濱崎太平次傳」によると、大坂では、西区立売堀北通六丁目に店を構えたとあります。店の支配人に肥後孫左衛門を起用しました。また「濱崎太平次翁之略伝」では、店の所在地は同じですが、更に、立売堀川と木津川の交差点のあたりにあり、「薩摩藩邸」すぐ隣に居を構えたと記されています。この薩摩藩邸は、薩摩藩蔵屋敷の下屋敷に該当すると思われます。すぐ北には「島津公園」があります。また、更に北に行くと薩摩屋仁兵衛が開削した「薩摩堀川」があり、この周辺には「薩摩屋仁兵衛」をはじめとして「薩摩屋〇〇介」などのように、「薩摩屋」の屋号の店がおよそ10軒ほど集中していました。



第8代濱崎太平次の銅像(鹿児島県)



調所広郷の像
(通称: 突立衛門)

10 江島橋跡

西区立売堀6

- ▶ 百間堀川に架かっていた橋です。立売堀川との合流間際にありました。明治8年(1875)に架けられた橋です。



11 尻無川跡

西区本田1-4

- ▶ 尻無川は、大渉橋(おおわたりはし)の南あたりで木津川より分岐して、現在の松島公園の西側を通り、京セラドームのど真ん中を貫き、岩崎運河と合流後、大正区と港区の間を抜けて海に注ぐ川でした。上流が埋め立てられて、現在は岩崎運河より下流となる尻無川が残っています。



天保14年(1842)の古地図

12 松 島 橋

西区本田1

- ▶ 旧松島(西区本田1丁目)周辺は、尻無川の分流点にあたり、江戸期では寺島と呼ばれていました。寺島の北端には松の古木があり、松の鼻とも呼ばれ、この風景を鑑賞するため遊客船が運行されていたそうです。
- 川口居留地が造られたこともあって、松島には大阪最大の遊所が開かれました。この開発を促進するため、明治2年(1869)、松島橋が架けられました。
- この橋は明治18年(1885)の大洪水によって流されたため、直後に鉄杭をもった木桁橋が架けられました。松島橋が現在のような近代橋になったのは、戦前の都市計画事業によるもので、3径間のゲルバー式の鋼桁橋という当時の一般的な形式が採用されています。



松島橋



13 九条島と朝鮮通信使の碑(松島公園)

西区本田1

- ▶ 九条島は淀川の下流にあるため、大雨や嵐の時は川の水や海水が逆流し、住民への被害が多かったようです。そこで江戸時代初期の寛永元年(1624)、香西哲雲がこの地に住む池山新兵衛と協力して、川を深く掘り、島の窪みを埋め、防波堤を築き、九条島を住みよい島にかえました。「九条」という地名は、江戸時代の学者 林 羅山がつけた衢壤(くじょう)に始まると言われています。また、朝鮮通信使について紹介の記載があります。

